

五箇地区むらづくり推進協議会

1 基本データ

- 地区名 五箇地区
- 人口 69人
- 面積 146k m²
- 地区の沿革

五箇地区は、市街地から約8km東南の位置にあり、西は「日本百名山」の「荒島岳」、東は赤兎山と白山連邦、岐阜県に接し、面積は146k m²と広大な林野を占める地域。上打波、下打波、東勝原、西勝原の4集落からなっている。

- 実施主体

五箇地区むらづくり推進協議会



2 現状と課題

地区内には、スキー場（現在は閉鎖）やキャンプ場も整備され、名勝地「刈込池」や「仏御前の滝」、九頭竜川の「魚止め」等、風光明媚な景色が点在しており、訪れる旅行者のための民宿業も行われていた（現在は1件が営業）。

かつては、小・中学校やJAの支所も置かれていたが、相次ぐ災害やダム建設による移住による人口減少や各組織の再編計画の中で、順次役目を終え廃止されていった。



現在は、JR 勝原駅のある西勝原区を中心に、東勝原・上打波・下打波の4集落に36世帯69名が生活をしている。また、無雪期には、何人もの村人が市街地から畑や山仕事のため通っており、神社では祭りも催されている。通年在住者のうち65歳以上が44名と高齢化率（65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合）の進行が63.8%と顕著で、いわゆる“限界集落”となっている。

2007年に国土交通省から公表された限界集落の実態によると、全国には7,878カ所もの限界集落が存在し、今後さらに増加すると記されている。過疎の問題が言われて久しいが、当地区は市街地からも遠いこともあり、その解決策を見いだせないまま人口流失が続き、少子高齢化社会が到来してしまった。

このような中で、地区内においては、むらづくり推進協議会が実施する「花いっぱい運動」を通じ、JR 勝原駅周辺を季節の花で飾って五箇地区を訪れる旅行者を出迎えたり、近所の婦人

によって30年ほど前から植樹され、春になると“桃源郷”として注目を集め、満開の季節には遠く中京や関西から観光客が訪れるまでになるなど、「豊かな自然を活かした交流」を目指して、地域住民が一体となり“ふるさと五箇”の活性化に向けて取り組んでいるところである。



3 事業の内容

今では雑草が生い茂り埋もれかけているが、かつてはイワナも泳いでいたという八幡神社下

の湧水地の再生と、“桃源郷”と表現される花桃並木の延長に新たに植樹された花桃の若木の保全を、地域住民協働による故郷の環境保全と位置付け、これを核として、更なる「豊かな自然を活かした交流人口の増加」を図り、地域の活性化につなげていくことを目指すものである。

内容 年度	事業実施スケジュール（案）
平成22年度	○湧水地の再生事業・湧水地の草刈り・防草シート張り・遊歩道整備 ○花桃の保全事業・花桃40本、ツツジ、ヤマボウシ等約100本の樹木の雪囲い
平成23年度	○西勝原区内の用水路の整備 ○湧水地・花桃の管理保全
平成24年度	○西勝原区内の用水路の整備 ○湧水地・花桃の管理保全



まず、「八幡神社下湧水地の再生」として、池底に溜まった泥の浚渫を行い、湧水の池底からの自噴現象を間近で見られるよう護岸の一部を階段状に下げ、水面に近づけた遊歩道を設置するなどの整備を行う。次に、「花桃の若木保全」については、地区の婦人が植え始めた花桃に続けと、平成20年4月に地元有志をはじめとして、地区内外から趣旨に賛同した20名以上の方々が参加し、植樹した花桃の若木や、むらづくり推進協議会が緑化推進事業で植樹した、ツツジやヤマボウシ等の若木の保全を合わせて行う。



市内有数の豪雪地帯にあって、苦勞して植えた若木を何とか守っていきたいということで、幹が弱い欠点を補うため、これまで植えられた約 150 本近くの若木に雪囲いを施し、雪害から守るというものである。

4 事業の成果



去る 11 月 14 日 (日)、早朝より八幡神社下湧水地の整備に着手した。

地区の人にとっては、「昔ここでイワナをとった」とか、「養魚場から流れてきたニジマスを捕まえた」とか、そんな思い出がいっぱいつまった特別な場所であるらしい。

大きなケヤキの倒木の始末が大変で、チェーンソーで切断し運んだり、背丈以上に生い茂った雑草を草刈機で刈り取る等、大変な重労働であった。



八幡神社下湧水地



湧水地の自噴箇所

それでも参加者は、子どもの頃に遊んだ思い出の地の再生作業に没頭し、撤去後には水の中に“魚”が見られるなど、整備に向けての第 1 歩を踏み出した。

湧水地の池底にたまった泥を浚渫してかき出し、周辺にあった石を利用して自噴箇所を囲むように配置した。また、間近で自噴現象が見られるように、護岸の一部に階段を設けて道路から湧水地に降りられるようにし、合わせて周辺を散策できるように、丸太杭を用いた幅 50cm、長さ 23m ほどの遊歩道も整備した。



湧水地の遊歩道

11月30日(火)には花桃やツツジ、ヤマボウシの若木の雪囲い作業に着手した。当初は日曜日に予定していたが、あいにくの雨模様のため延期されていたものである。

好天には恵まれたものの、これまで毎年植え続けられてきたため樹木の高さが均一ではなく、しかも本数が半端なく多いこと、また、平日の作業となったことにより参加者が限られてしまったために手間取った。近くの山には雪が積もり、本格的な冬の到来がすぐそこまで来ているため、平日に関わらず天気の状態を見計らって、

各自が随時作業に参加し進めていくことを確認しあった。



5 今後の展望

八幡神社下の湧水地の再生と、花桃の若木の保全という、長い間地区の懸案事項であった当初の目的は達成できた。

今後は、整備した場所を地区の“宝”として、また五箇地区を訪れる人々が散策できる新たな憩いの場所として、この先10年・20年と受け継いでいかなければならない。そのためには、むらづくり推進協議会を中心とした、地区住民の手による適切な維持管理が不可欠である。『自分たちの共有の財産』であるという認識と、これを守っていくという取り組みが、“ふるさと五箇”の活性化に繋がり、交流人口の増加につな

がっていくものと思われる。

地区内には、まだまだ少し手を加えれば再生可能な埋もれた箇所がある。これらを一つ一つ吟味して再生してひとつの導線として描き、昔懐かしい自然に親しむツールとして活用していくのも面白いかもしれない。

過疎化が進む地区にあって、自然がそのまま残っているのが最大の強みである。